

# 久米島から採集された興味あるコメツキムシについて

鈴木 互<sup>1)</sup>・乙部 宏<sup>2)</sup>

<sup>1)</sup> 〒 211-0031 神奈川県川崎市木月大町 6-1 法政大学第二高等学校生物科 (wsuzuki@hosei2.ed.jp)

<sup>2)</sup> 〒 514-0815 津市藤方 1461-3

## Notes on Some elaterid beetles collected from Kume-jima Island, Japan

Wataru SUZUKI & Hiroshi OTOBE

**Summary.** Twenty species of the family Elateridae (Coleoptera) have been known from Kume-jima Island, Nansei Islands, Japan. In this short paper, twelve species of the family are recognized from Kume-jima Island. Among them, five species are recorded from the island for the first time: *Lacon* (*Alaotypus*) *yayeyamanus* (Miwa, 1934), *Adelocera* (*Brachylacon*) *difficilis* (Lewis, 1894), *Nipponoelater babai seinoi* (Kishii, 1987), *Melanotus okinawensis* Ôhira, 1982 and *Paracardiophorus tokara* Nakane and Kishii, 1955.

久米島は沖縄本島から西に約 100km に位置する小島で、これまでに 20 種のコメツキムシが知られている (Kishii, 1999, 2001, 2004, 2007; 大平, 1997a; 大平・楠井, 1982; 渡辺, 2010). このうち 6 種は、近隣の島を含めたこの地域に固有の種や亜種とされている。また、琉球列島の西表島、沖縄本島と久米島にわずかな記録しかないニセベニコメツキの分布が知られるなど、日本のコメツキムシの研究を進める上でも重要な地域となっている。

筆者の一人、乙部は 2006 年 5 月に久米島を訪ね甲虫類の調査をおこなった際、13 個体のコメツキムシを採集した。一方、鈴木は 2012 年 3-4 月に同島において主にライトを付けた FIT を用いた調査を行い、多くのコメツキムシを得ることができた。これらの資料に加え、鈴木の手元にあった久米島の標本を分類整理した結果、久米島未記録種や採集例の少ない種を含め、12 種のコメツキムシを確認することができたので、ここに簡単に紹介したい。

本稿をまとめるにあたり、乙部の調査に同行されご協力いただいた宗像市の岡村純氏、久米島の標本を快くご恵与くださった東京都の小林信之氏、比較標本をご提供いただき、さまざまご教示をいただいた岡崎市の大平仁夫博士、大阪府の有本久之氏、そして久留米市の野田亮氏に厚くお礼申し上げます。

なお、本研究の一部は、鈴木の方法政大学附属中・高等学校国内研究員制度の支援を受けておこなわれた。

1. クメジマヒゲコメツキ *Pectocera maruyamai* Kishii, 2001 (Figs. 1, 9-10)

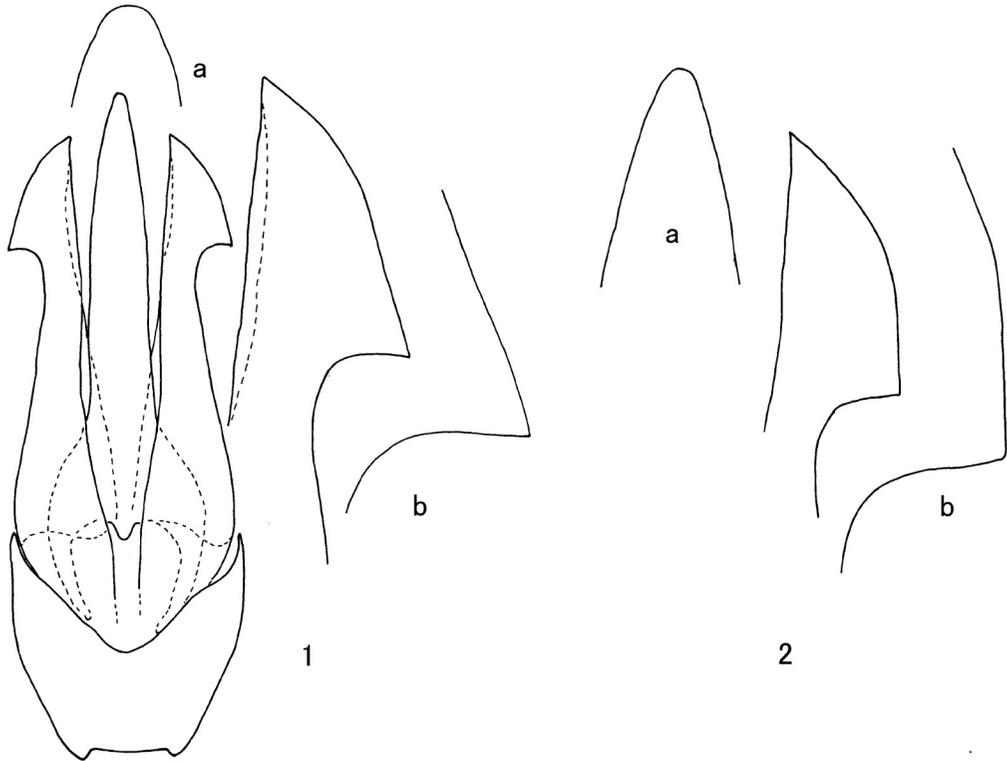
5♂♂, 白瀬川上流, 19. III. / 4. IV. 2004, Fumiyasu Satou leg.; 1♂, 宇江城岳, 1-3. VI. 2006, 樹木のスイー

ピング, 乙部宏採集 (乙部保管); 1♂1♀, 比屋定, 1-3. VI. 2006, 自販機のライト, 乙部宏採集 (乙部保管); 1♂, ダルマ園地, 29. III. 2012, 灌木の叩き網, 鈴木互採集 (アルコール液浸, 名古屋大学大場裕一博士保管); 多数, アーラ岳, 28. III. - 4. IV. 2012, 地面に設置と枝吊り下げ式の FIT, 鈴木互採集.

分布. 久米島, 渡嘉敷島.

本種は、1998 年 3 月に丸山宗利博士により久米島の白瀬川で採集された 2 雄 1 雌の標本に基づいて Kishii (2001) により命名記載された大型のヒゲコメツキである。その後、Kishii (2004) は久米島産の個体を追加報告し、大平・楠井 (2006) は近隣の渡嘉敷島から疑問符を付けながら雌個体の記録をしている。これまでに本種が採集された個体数は少なかったが、筆者らは上記のように多くの個体を検することができた。採集データからみると、本種は 3 月中旬頃には雄が出現しはじめ、少なくとも 6 月上旬までは雌雄が活動しているようである。3 月下旬から 4 月上旬の調査では多くの個体が得られたが、その性比は雄：雌 = 3 : 1 であった。雌雄ともに性差なくライトに誘因されるものと仮定するならば、本種の発生ピークは 4 月上旬以降になるのではないかと推測される。

本種は近隣の沖縄本島の沖繩本島に生息するオキナワヒゲコメツキ *P. yonaha* Kishii, 1996 に酷似するが、雄交尾器の側片先端部は亜三角形を呈することや、その外縁突起の先端が尖るなどの違いがある (Fig. 1b). Kishii (1996) は、本種とオキナワヒゲコメツキとの区別点として、色彩がより黒くなることや上翅斑紋が小さく不明瞭であることをあげているが、今回の多くの個体の調査では、これらの特徴にはかなりの変異があることが明らかとなった。また、検することができた雌個体の体



Figs. 1–2. Male genitalia of *Pectocera* spp. (All setae omitted from parameres). 1, *P. maruyamai* Kishii, from Kume-jima Is.; 2, *P. yonaha* Kishii, from Okinawa-hontô Is. a: apex of median lobe. b: apical portion of paramere.

長を調べたところ、大顎先端から上翅端までの計測でも 30 ~ 35 mm の範囲におさまり、平均体長は 32 mm となった。原記載の雌個体は体長 39 mm とあるので、本種の雌の中でも飛び抜けて大型の個体といえる。

## 2. フタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus pini* (Lewis, 1894)

多数、アーラ岳, 28. III. – 4. IV. 2012, 地面設置式と枝吊り下げ式のブラックライト付き FIT, 鈴木互採集。

分布. 本州, 四国, 九州, 神津島, 式根島, 御蔵島, 三宅島, 冠島, 隠岐, 高知沖ノ島, 平戸島, 壱岐, 対馬, 上甌島, 下甌島, 五島列島, 黒島, 中之島, 屋久島, 種子島, 奄美大島, 加計呂麻島, 徳之島, 沖縄本島, 慶留間島, 渡嘉敷島, 久米島。

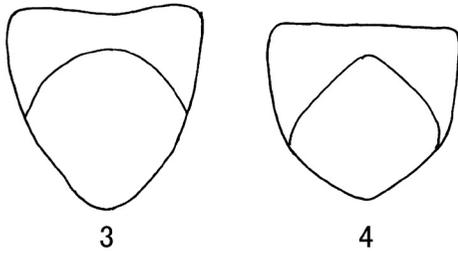
Kishii (1999, 2004) によると、原名亜種は東南アジアから八重山諸島に分布し、久米島のものは、別亜種 *pini* に属するものであるという。久米島からは、ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus* (Candèze, 1865) の記録もある。

## 3. サカゲチオオヒラタコメツキ *Anthracalaus sakaguchii* (Miwa, 1929)

1♂, だるま山~大岳, 28. VII. 1983, 小林信之採集。分布. 沖縄本島, 慶留間島, 渡嘉敷島, 久米島, 粟国島, 石垣島, 西表島, 与那国島。

本種は、雄が灯火などによく集まることが知られているが、雌は雄に比べ採集される機会が極端に少なかった。最近、松村 (2013) は、沖縄県浦添市浦添大公園に植栽されたリュウキュウマツの根際や枯れ葉上で本種を観察し、雄は地面近くの樹皮や根際に静止している個体が多いこと、雌は根際近くの地面を這っている個体が多いことを報告している。残念ながら、配偶行動や幼虫の生息場所については確認できなかったようであるが、リュウキュウマツと関わりが強いことが明らかになったので、今後も生態には注意しておく必要があるだろう。

## 4. ヤエヤマサビコメツキ *Lacon (Alaotypus) yayeyamanus* (Miwa, 1934)



Figs. 3–4. Scutellum of *Quasimus* spp. 3, *Q.* sp. from Kume-jima Is.; 4, *Q. hiroyoshii* Ôhira, from Okinawa-hontô Is. (after Ôhira, 1998).

1ex., だるま山～大岳, 28. VII. 1983, 小林信之採集.  
分布. 鹿児島佐多岬, 中之島, 宝島, 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄本島, 渡嘉敷島, 慶留間島, 阿嘉島, 石垣島, 西表島, 与那国島.

南西諸島に広く分布する普通種であるが, 久米島からの記録はこれまでなかったようである.

5. シロオビチビサビキコリ *Adelocera* (*Brachylacon*) *difficilis* (Lewis, 1894)

1ex., だるま山～大岳, 28. VII. 1983, 小林信之;  
12exs., アーラ岳, 28. III. – 4. IV. 2012, 地面設置式のブラックライト付き FIT, 鈴木互採集.

分布. 本州, 四国, 九州, 対馬, 平戸島, 五島列島, 上甕島, 屋久島, 口永良部島, トカラ列島中之島, 奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄本島, 渡嘉敷島, 石垣島, 西表島; 台湾.

千葉県から南西諸島まで広く分布する種であるが, 久米島からの記録はこれまでになかった. スダジイなどの常緑広葉樹の叩き網や林床に設置した FIT で採集されることが多い. 南西諸島ではどこでも個体数が少なくないが, 久米島では発生時期にはまだ早く, 個体数は多くなかった.

サビキコリの仲間は, 久米島からクメヒメサビキコリ *Agrypnus* (*Colaulon*) *miyamotoi kume* Kishii, 1996 や *Agrypnus* (*Colaulon*) *yuppe* (Kishii, 1964) が知られている.

6. チビマメコメツキの一種 *Quasimus* sp. (Figs. 3 & 11)

1ex., アーラ浜, 2. V. 2006, 乙部宏採集.

分布. 久米島.

チビマメコメツキ属 *Quasimus* のコメツキムシは久米島からタカハシチビマメコメツキ *Q. takahashii* Miwa, 1934 とヒロヨシチビマメコメツキ *Q. hiroyoshii* Ôhira, 1998 の 2 種が知られている. 今回検することができた個体は, 体形や色彩などが後

者のヒロヨシチビマメコメツキによく似ているものであった. Ôhira (1998) に図示された沖縄本島産のヒロヨシチビマメコメツキでは, 小楯板の環状隆起線前縁中央がやや角張るが (Fig. 4), 今回の久米島産の個体では, 中央部が前方に張り出すものの弧状を呈しており (Fig. 3), 両者の間には違いが認められた. この点について大平仁夫博士にお話をうかがったところ, ヒロヨシチビマメコメツキの小楯板の環状隆起線には種内でも変異が見られ, 弧状のものから, やや台形のものまであり, 久米島のものは台形状をしているということであった. また, この形質だけによる分類は注意が必要だとのことである. ここでは種名を確定するまでにはいたらなかったが, 今後, 個体数をそろえた上で分類学的な検討をしたい.

なお, Kishii (2004) と岸井 (2007) は, 久米島から種名不詳の *Quasimus* sp. が存在することに触れているが, 特徴が示されていないため, 今回の種との関係を明らかにすることはできなかった.

7. アマミフトナガコメツキ *Nipponoelater babai seinoi* (Kishii, 1987)

1♀, だるま山～大岳, 28. VII. 1983, 小林信之採集.  
分布. 沖縄本島, 久米島, 石垣島, 西表島.

大型の普通種であるが, これまで久米島からの記録はなかった.

本種は, 最初 *Elater* 属の *Nipponoelater* 亜属に置かれ記載されたが, 大平 (1997c) では *Orthostethus* 属に移され, *Nipponoelater* は *Orthostethus* 属の下位シノニムとされた. 最近の Shimmel & Tarnawsky (2010) の研究では, *Nipponoelater* を *Orthostethus* とは区別して扱い, 属に昇格させているので, ここではその処理に従った.

8. オキナワクチプトコメツキ *Parasilesis okinawensis okinawensis* (Miwa, 1928) (Fig. 15)

2exs., 宇江城岳, 1–3. V. 2006, 乙部宏採集.

分布: 沖縄本島, 粟国島, 伊江島, 座間味島, 久米島, 石垣島, 西表島.

久米島からは Ôhira (1970) や Kishii (2004) による記録がある.

Ôhira (1990) は, ツヤクチプトコメツキ属 *Silesis* のタイプ種である Ceylon 産の *S. hilaris* Candèze, 1863 と日本産のハヤタマクチプトコメツキ *Okinawana hatamai* Kishii, 1975 およびクチプトコメツキ *Silesis musculus* Candèze, 1873 と比較し, *Okinawana* 属は主要特徴が真の *Silesis* 属と一致することがら *Silesis* の下位シノニムとし, クチ

プトコメツキに対しては、特徴が異なることから新属を設立した。その後、オキナワクチプトコメツキも *Parasilesis* 属に移されている。Kishii (1999) は、日本のコメツキムシのチェックリストの中で、*Parasilesis* は *Okiwanana* と同様 *Silesis* の下位シノニムとしているが、その理由については述べられていない。

筆者らは *Silesis* と *Parasilesis* は互いに近縁であると考えているが、残念ながら *Silesis* のタイプ種を検査することができなかったため、Kishii (1999) の処理を検証するには至らなかった。ここでは従来の分類学的な扱いを踏襲し、オキナワクチプトコメツキに対しては *Parasilesis* を当てておく。

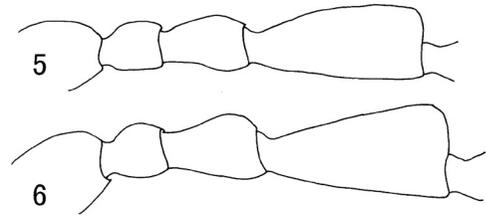
#### 9. リュウキュウクシコメツキ *Melanotus lochooensis lochooensis* Miwa, 1929 (Fig. 12)

2exs., アーラ岳, 28. III. - 4. IV. 2012, 地面設置式のブラックライト付き FIT, 鈴木互採集 (鈴木保管).

分布: 沖永良部島, 沖縄本島, 久米島.

本種は、Okinawashima で採集された個体に基づいて Miwa (1929) により記載されたクシコメツキで、前胸背板に鈍い光沢を持つ特徴のある種である。Ôhira (1967) は、中之島, 宝島, 悪石島, 奄美大島からタンチャメクシコメツキ *Melanotus (Melanotus) tanchamelis* という種を記載したが、現在ではリュウキュウクシコメツキの亜種とされている。石垣島〜与那国島に産するものは、Kishii (1999) によると、別亜種に区別出来るとしている。

Kishii (2004) は、久米島のコメツキムシのリストの中で、前胸腹板突起の特徴を理由に本種の所属を *Melanotus* 属から *Spheniscosomus* 属に移しているが、この *Spheniscosomus* については、これまで研究者によりその分類学的な扱いがさまざま、現在もなおその扱いは定まっていない。大平・有本 (1985), Suzuki (1999) は、これまでの扱いを踏襲し、*Spheniscosomus* をクシコメツキ属 *Melanotus* の一亜属としているが、Hayek (1999) は *Sphenisocopus* は *Melanotus* の下位シノニムとし、亜属としても認めていない。Hayek (1999) の判断は、分類に用いられている前胸腹板突起の形質が、世界的に見ると種により微妙な変異が認められることに基づいており、高次の分類グループを分ける形質としてはふさわしくないと述べている。Platia and Schimmel (2001) は前胸腹板突起の特徴を分類形質として再び重視し、従来同様 *Spheniscosomus* をクシコメツキ属の亜属とし、Cate (2007) もそれを踏襲している。筆者らは、前胸腹板突起の形質は種により微妙な変異が存在しても、その変異がクラ



Figs. 5–6. Basal four segments of male antennae. 5, *Melanotus masamichii* Kishii, from Kume-jima Is.; 6, *M. takahashii* Kishii, from Amami-Ôshima Is.

インとなりつながらず、分けることができるのであれば、分類形質として評価しても良いと考えているが、現在明らかにされている幼虫においては、*Spheniscosomus* と *Melanotus* を識別するのに十分な形質の違いは見い出されていない。今後は、最近研究が進められている DNA の解析なども含め、総合的に検討考察することが必要であろう。

#### 10. クメクシコメツキ *Melanotus masamichii* Kishii, 2004 (Figs 5, 7, 13)

2♂1♀, 宇江城岳, 1–3. V. 2006, 乙部宏採集; ♂多数, アーラ岳, 28. III. - 4. IV. 2012, 地面設置式と枝吊り下げ式のブラックライト付き FIT, 鈴木互採集.

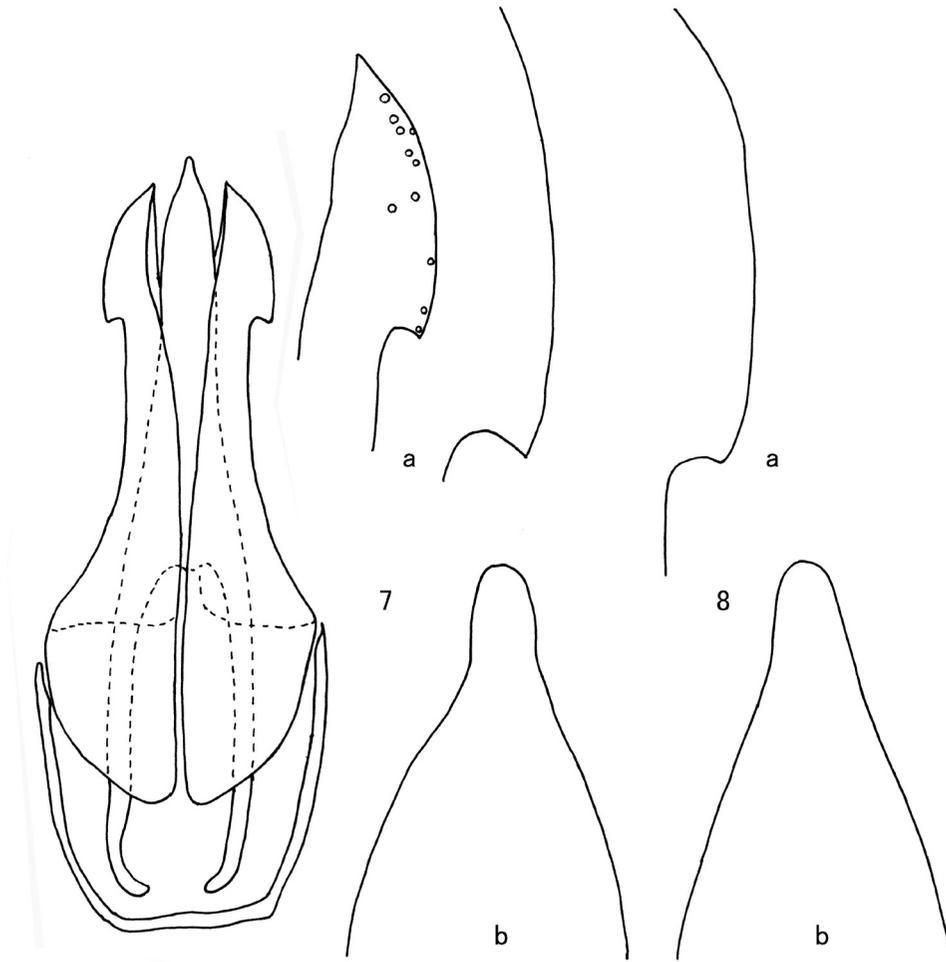
分布. 久米島.

本種は、Kishii (2004) により、Daruma-yama Park (ダルマ山園地) および Mt. Uegusuku (宇江城山) で採集された 1 雄 1 雌に基づいて命名記載された種であるが、その後の記録はなかった。久米島固有種であるが奄美大島から沖縄本島、そして慶良間諸島に広く分布するタカハシクシコメツキ *Melanotus takahashii* Kishii, 1974 にたいへんよく似た種である。Kishii (2004) の原記載では、近縁種のタカハシクシコメツキとの比較部分において、前胸背板や上翅の点刻の様子、前胸背板の形状、触角の様子等に違いがあることが述べられている。ただ、具体的には触れず、全体記載に委ねている。筆者らは、雌雄の個体を検査することができたので、タカハシクシコメツキとの識別点についてまとめておきたい。

なお、大平 (1998) が再記載した喜界島産のタカハシクシコメツキでは、体長が 13 mm 内外、触角第 3 節は 2 節の 1.6 倍となっており、これらの特徴は、クメクシコメツキと喜界島産のタカハシクシコメツキとの識別点には使えない。これが地域変異によるものなのか、それとも、単なる個体変異であるのかについては、今後の研究課題としたい。

表1. クメクシコメツキとタカハシクシコメツキの形態的な違い.

比較形質	種名	クメクシコメツキ <i>M. masamichii</i> Kishii (久米島産)	タカハシクシコメツキ <i>M. takahashii</i> Kishii (奄美大島産)
色彩		暗褐色	黒褐色～黒色
体長		♂: 14.0～16.0 mm ♀: 15.5 mm	♂: 17.0～18.0 mm ♀: 16.0～17.5 mm
触角第2節と3節の長さの比		♂: 2節の約1.67倍 (Fig. 5) ♀: 2節の約1.66倍	♂: 2節の約1.85倍 (Fig. 6) ♀: 2節の約1.74倍
触角の長さ		♂: 第9節先端で前胸後角を超える ♀: 11節先端でかろうじて前胸後角に届く	♂: 第10節先端で前胸後角を超える ♀: 11節先端は前胸後角基部にかろうじて届く程度
前胸背板の形状		♂: 背面は平圧される 両側は徐々に前方に狭まるか、弱く ♀: 背面は弱く膨隆する 両側は中央部で外側に弱く弧状	♂: 背面は弱く膨隆する 両側は中央部で弱く弧状 ♀: 背面はやや強く膨隆する 両側は中央部で外側に張り出し、強く弧状
前胸背板の点刻の状態		♂: 点刻間距離 > 点刻直径 ♀: 点刻間距離 > 点刻直径	♂: 点刻間距離 < 点刻直径 ♀: 点刻間距離 < 点刻直径
雄交尾器		側片先端外角はやや鋭く尖る (Fig. 7a)	側片先端外角は鈍く角張る (Fig. 8b)



Figs. 7-8. Male genitalia of *Melanotus* spp. (All setae omitted from parameres). 7, *M. masamichii* Kishii, from Kume-jima Is. ; 8, *M. takahashii* Kishii, from Amami-Ōshima Is. a: Apical portion of paramere. b: Apical portion of median lobe.



Figs. 9–17. Elateridae from Kume-jima Is. 9, *Pectocera maruyamai* Kishii, ♂; 10, ditto, ♀; 11, *Quasimus* sp.; 12, *Melanotus loochooensis loochooensis* (Miwa), ♂; 13, *Melanotus masamichii* Kishii, ♂; 14, *Melanotus okinawensis* Ohira, ♂; 15, *Parasilesis okinawensis okinawensis* (Miwa); 16, *Paracardiophorus tokara* Nakane and Kishii, ♀; 17, ditto, hind wings and elytra, ventral view.

久米島にはクシコメツキ属 *Melanotus* の種が他に4種知られているが、雄交尾器や雌の交尾囊の形質の違いにより区別できる。

11. オキナワカンシャクシコメツキ *Melanotus okinawensis* Ôhira, 1982 (Fig. 14)

3♂♂, 比屋定, 1-3. V. 2006, 自販機のライト, 乙部宏採集(鈴木・乙部保管). 1♂, アーラ岳, 28. III. - 4. IV. 2012, 地面設置式のブラックライト付きFIT, 鈴木互採集.

分布. 奄美大島, 徳之島, 沖永良部島, 沖縄本島, 久米島, 南大東島.

本種は、沖縄本島から記載されたものであるが、久米島からの記録はこれまでなかった。久米島の近隣では、大平・楠井(2005)による慶良間諸島の前島と外地島の記録がある。

カンシャクシコメツキの仲間、久米島から他に、クメカンシャクシコメツキ *Melanotus kumensis* Ôhira, 1999 とクメチャイロクシコメツキ *M. daruma* Kishii, 2004 の2種が知られているが、いずれも採集例が少なく、後者のクメチャイロクシコメツキは雄が現在のところ未知である。

久米島からはこれらの他に、特産種である *Priopus kume* Kishii, 2004 が知られている。

12. トカラコハナコメツキ *Paracardiophorus tokara* Nakane and Kishii, 1955 (Figs. 16-17)

1♀, アーラ浜, 2. V. 2006, 乙部宏採集.

分布. 屋久島, 宝島, 奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島, 中之島, 久米島.

この個体は、浜の砂を篩にかけて得られたものである。

久米島の近隣では、本種は渡名喜島と座間味諸島の前島, 屋嘉比島, ナガンヌ島から記録があるが(大平・楠井, 2005, 2006), 久米島からの記録はなかった。大平(1997b)によると、本種は屋久島, 宝島, 奄美大島, 喜界島, 徳之島, 沖永良部島に広く分布し、現在5亜種に分けられているが、区別に用いられている小顎枝末端節の形質は雌雄、個体変異が認められ、この特徴による亜種の識別は困難であるとしている。

今回、久米島から得られた雌個体は、興味深いことに後翅に明らかな縮小が認められた(Fig. 17)。後翅は上翅先端から1/5のところまで届く程度で、先端は折りたたまれることなく伸びきった状態であった。調査することができた個体数は1個体のため、この後翅の形質がこの久米島で安定したものなのか確認することはできなかったが、少

なくともこの個体は、自由に飛翔することはできないと考えられる。ここでは、久米島産の形態的特徴を図示するまでにとどめ、分類学的な検討はより多くの資料を得た上でおこないたい。

久米島のコメツキムシは、上記の他にヒメクシヒゲコメツキ *Teterigus okinawensis* Ôhira, 1967, スジマダラチビコメツキ *Aeoloderma brachmana* (Candèze, 1859), ヨナグニチビコメツキ *Babadrasterius urabensis* Ôhira, 1994, マトバコナガコメツキ *Ectamenogonus matobai* (Kishii, 1973), サメハダキコメツキ *Xanthopenthes konoi* Nakane and Kishii, 1955, ニセベニコメツキ *Pleonomus makiharai* Ôhira, 1970 の記録がある。

本報告に用いた標本は、とくに明記した一部を除き、鈴木が保管している。

引用文献

- Cate, P. C., 2007. Family Elateridae Leach, 1815 (Cebriioninae, Lissominae, Subprotelaterinae). In: Löbl, I. & A. Smetana (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 4: 94-207. Apollo Books, Stenstrup.
- Hayek, C. M. F. von, 1990. A reclassification of the *Melanotus* group of genera (Coleoptera: Elateridae). Bulletin of the British Museum (Natural History) (Entomology), 59 (1): 37-115.
- Kishii, T., 1974. Elaterid-beetles from the Ryukyu Archipelago, collected by Messrs. I. Matoba, O. Tamura and T. Takahashi in the spring of 1973, with some new forms and notes. The snappers of Island (VII). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (8): 1-19.
- Kishii, T., 1977. Some new forms of Elateridae in Japan (XII). The Scientific Reports of Kyôto Prefecture, Kyoto, (15): 49-61.
- Kishii, T., 1987. Some new forms of Elateridae in Japan. Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (31): 1-20. pl. I.
- Kishii, T., 1999. A check-list of the family Elateridae from Japan (Coleoptera). Bulletin of the Heian High School, Kyoto, (42): 1-144.
- Kishii, T., 2001. An addition to the genus *Pectocera* (Coleoptera: Elateridae) from Is. Kume-jima of the Nansei archipelago. "Some new forms of Elateridae in Japan (XXXII)". Entomological Review of Japan, Osaka, 56(2): 41-44.
- Kishii, T., 2004. A study on the click beetles collected by Mr. M. Yagi from Kume Island in the Okinawas (Coleoptera, Elateridae). Entomological Review of Japan, Osaka, 59: 167-176.
- 岸井 尚, 2007. 細川浩司氏採集による南西諸島のコメツキムシ. *Nejirebane*, (120): 1-11.
- 松村雅史, 2012. 沖縄島のコメツキムシ2種について. 月刊むし, (503): 26-27.
- Miwa, Y. 1929. The Elaterid-fauna of Loo-Choo. Transactions of the Natural History Society of Formosa, Taihoku, 19: 339-351.
- Ôhira, H., 1970. The Elateridae of the Ryukyu archipelago,

- VIII(Coleoptera). Bulletin of Aichi University of Education, 19(Natural Science): 103-111.
- 大平仁夫, 1990. 日本産クチプトコメツキ属について. Entomological Review of Japan, Osaka, 45: 73-75, pl. 7.
- 大平仁夫, 1997a. 沖縄本島・久米島のコメツキムシ採集記. 北九州の昆虫, 44: 15-18.
- 大平仁夫, 1997b. 日本産コハナコメツキとその近縁種について(甲虫目:コメツキムシ科). 比婆科学博物館研究報告, (35): 1-16, pls.I-XIV.
- 大平仁夫, 1997c. 日本産オオナガコメツキとその近似種について. 比婆科学, (182): 37-44, pls. I-V.
- 大平仁夫, 1998. 九州に産するコメツキムシ科の珍種 (67). 北九州の昆虫, 45: 105-106, pl. 15.
- Ôhira, H. 1998. New or little known Elateridae (Coleoptera) from Japan, XXXIX. Elytra, Tokyo, 26(2): 373-377.
- 大平仁夫・楠井善久, 1982. 琉球のコメツキムシ若干種について. 越佐昆虫同好会々報, (55): 12-16.
- 大平仁夫・楠井善久, 1990. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ. 月刊むし, (232): 26-29.
- 大平仁夫・楠井善久, 2005. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ (2). 月刊むし, (412): 32-33.
- 大平仁夫・楠井善久, 2006. 琉球列島小島嶼のコメツキムシ (3). 月刊むし, (429): 34-39.
- 大平仁夫・榎原寛, 2012. 奄美大島油井岳の異なる5林相区で捕獲されたコメツキムシ類について. 比婆科学博物館研究報告, (53): 33-47, pls. I-VII.
- Platia, G. and R. Shimmel, 2001. Revisione delle specie orientali (Giappone e Taiwan esclusi) del genere *Melanotus* Eschscholtz, 1829 (Coleoptera, Elateridae, Melanotinae). Museo Regionale di Scienze Naturali, Torino, Monografie, 27: 638 pp.
- Shimmel, R. and D. Tarnawski, 2010. Monograph of the subtribe Elaterina (Insecta: Coleoptera: Elateridae: Elaterinae). Genus, Warclaw, 21(3): 325-487.
- 渡辺昭彦, 2010. ニセベニコメツキが久米島で得られる. 甲虫ニュース, (172): 26.

(2013年3月24日受領, 2013年6月6日受理)

### 【短報】3種のコメツキダマシの食樹について

コメツキダマシ科の甲虫は, 日本からこれまでで約 80 種が知られているが, 幼虫の食樹について明らかにされている種は少ない. 最近, 筆者は木村欽二氏と林寛次氏のお二人が各地で採集されたコメツキダマシの標本の中から, リョウブ, シデ, ブドウ, オニグルミの材から羽化脱出させたデータが付いた標本を見いだしたので, コメツキダマシの食樹資料としてここに報告しておきたい.

発表するにあたり, 貴重な情報と標本をご提供いただいた東京都の木村欣二氏と徳島県林寛次氏, 標本を調査するにあたりお世話になった神奈川県小笠原隆氏に深く感謝申し上げます.

#### 1. ナガコメツキダマシ *Isorhipis banghaasi* (Reitter, 1899)

食樹: リョウブ科リョウブ *Clethra barbinervis* Sieb. et Zucc. (Clethraceae)

1♂2♀♀, 3. V. 1968, 静岡県遠笠山 (材採), 20. VII. 1968 (東京都品川で羽化脱出), 木村欣二採集.

食樹: カバノキ科クマシデ属の一種 (シデ) *Carpinus* sp. (Betulaceae)

6♂3♀♀, 徳島県阿波町妙体山, 9. V. 2004 (羽化脱出), 林寛次採集.

#### 2. オニコメツキダマシ *Hylochares harmandi* Fleutiaux, 1900

食樹: ブドウ科ブドウ属の一種 *Vitis* sp. (Vitaceae)

1ex., 栃木県中禅寺湖, 5. V. 1968 (材採), 3.VII. 1968 (東京都品川で羽化脱出), 木村欣二採集.

本種は, ニレ科のケヤキ *Zelkova serrata* (Thunb.) Makino (Ulmaceae) の枯れ枝から羽化脱出した記録がある (山上, 1989).

#### 3. ナガミゾコメツキダマシ *Dirrhagofarsus lewisi* (Fleutiaux, 1900)

食樹: クルミ科オニグルミ *Juglans mandshurica* Maxim. var. *sachalinensis* (Miyabe et Kudo) Kitamura (Juglandaceae)

4exs., 徳島県西祖谷山村祖谷浜, 29. V. 2000 (羽化脱出), 林寛次採集.

本種は, 1970年代に日本から北米に移入し, アメリカブナ *Fagus grandifolia* Ehrhart (Fagaceae) の材に侵入することが知られている (Ford & Spilman, 1979).

#### 引用文献

- Ford, E. J. and T. J. Spilman, 1979. Biology and immature stages of *Dirrhagofarsus lewisi*, a species new to the United States (Coleoptera, Eucnemidae). The Coleopterists Bulletin, 33: 75-84.
- 山上 明, 1989. 多摩川流域のケヤキ枯れ枝に侵入する甲虫類. 神奈川虫報, (90): 129-146.

(鈴木 互 法政大学第二高等学校生物科)